

災害復旧に隊員らの支援続々

11月5日(金)から3日間で延べ81人

【支援活動パートⅡ】

10月26日から27日にかけての降雪災害復旧のための作業は雪が解けるまで見合わせていましたが、砥山ふれあい果樹園において10月のりんごの収穫作業支援に引き続き、5日に作業が再開されました。週末の3日間で発見隊員を中心に延べ81人ものボランティアがブドウ棚の撤去などに加わりました。



ブドウ棚の復旧作業

砥山ふれあい果樹園では、2か所のブドウ棚(計25アール)が上に積もった雪の重さで倒壊。ブドウの木は殆どが根元から倒れているため、どれだけの木が生き残ってくれるか心配されます。本格的な降雪前にブドウの木を整理しなければ来年の収穫が期待できないため、一日も早い復旧作業が望まれました。

まず倒壊したブドウの木を立て直すためには、約5m間隔に立てられた鋼管の支柱間に張り巡らされたワイヤーと番線をすべて撤去し、複雑に絡み合ったブドウの蔓を開放する必要があります。木を傷めないように丁寧に撤去するうえで多くの人手が求められる作業となりました。固定用の針金を一本づつ切断したり絡まった蔓を切り離すためには、中腰の姿勢での作業となりましたが参加者は忍耐強く働きました。

ブドウ棚の再建までを見据えると、現在の作業の進捗状況は約30%程度と思われますが、それでもボランティアの皆さんの働きで困難なワイヤーや針金の引き抜き作業が8割ほど完了しました。引き続き、残りの作業の継続にもかなりの人手が必要と

されています。

一方、大きな被害を受けたりんごの木についても、チェーンソーを使って損傷部分の切り落としが行われ、膨大な幹や枝の整理作業が必要です。

また、りんごの木の折れたり裂けたりした部分の手当も早急に必要であり、エコファーマーの指定



倒壊したりんごの伐採

を受けている同園では「樹木の味方」という最近注目されている化学薬品ではないワサビ成分から作られたペースト状の薬品を塗布して病気から木を保護する計画です。

今回の支援は新聞やテレビニュースをとおして果樹園の窮状を知った人々が、組織としては9団体、個人としても砥山農業小学校の卒業生の家族のような参加も続々とあり、これだけ大勢の支援を受けている背景には、生産者と消費者の交流という活動を地道に続けてきた発見隊や砥山農業クラブの努力が実ったものと思われます。



は、支援を行った果樹園

災害復旧支援の記録



全壊したブドウ棚



ワイヤーと番線の撤去



ワイヤー止め金具の撤去



番線の巻き取り

大雪で農業被害 500万円超

南区など 収穫前の果実落下

10月26日から27日にかけて、10月としては異例の大雪を記録した札幌市で、積雪による農業被害が出ていることが分かった。南区、清田区、西区に局地的な降雪があり、果樹園の木が折れたり、ビニールハウスの倒壊が相次いだ。市によると、被害総額は5日現在、5千万円を上回るとみられる。札幌市での雪による農業被害は94年2月以来という。

札幌管区気象台によると、26日夜から27日朝にかけての積雪は、札幌3区で計41戸。コマツウ棚で約2300万ナヤホレンソウなど、全体では5千万円が、南区小金湯は33のビニールハウス約60棟が倒壊し、ブドウ棚の全壊あるいは半壊は合計1万1千平方メートルに達した。被害は、雪対策のためビニールハウスの覆いを外そうとしたが、「短時間折れ、収穫前の果実の間に合わない、目

（山崎真理子）

倒壊のブドウ棚撤去

南区の果樹園 ボランティア団体手助け

10月の降雪で農業被害があった札幌市南区の低山ふれあい果樹園で5日、農園を利用しているボランティア団体のメンバーなど15人が倒壊したブドウ棚の撤去作業に加わった。同園では、リンゴやナシなどの幹や枝が折れたほか、計2500平方メートルあるブドウ棚が雪の重みで倒壊した。約120本が根本から折れるなどの被害を受けた。

（山崎真理子）

の前後々々と倒壊してを急ぐとともに、道やいったら（農政市農協とも協議しながら、対策を検討する市は、被害額の確定にしている。

【被害と支援状況を伝える北海道新聞 2010.11.6】



裂けた枝の切断

発見隊今後の行事予定

12月18日 飯寿司試食会

発行: 八剣山発見隊(事務局長 瀬戸修一)

〒061-2275 札幌市南区砥山 84 番地

☎・FAX 011-596-2694

E-mail toyamafureai@gol.com

URL <http://hakkenzan.com/>